小09　町田市立本町田東小学校

2024年度　授業改善推進プラン（全体計画）

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

「子どもの笑顔や真剣なまなざしのあふれる学校」を目指し、児童の知的好奇心を促し学習の満足感を獲得することができるような教育活動を展開することで、基礎・基本となる学力の定着を図る。「こころのふるさととなる学校」にするために地域との協働的な集団活動を通して、児童に望ましい人間関係を形成させる、社会性を向上させるために互いの価値観や立場、個人個人の考えの相違を理解しよりよい関係にしていくことができる力を育成していく。また児童が個々のよさを見付けることができる力、互いを尊重していく力や自己肯定感をも育成していく。

授業改善の重点

家庭や地域と連携しながら、生活指導を基盤に置き、基本的な生活習慣を身に付けさせることで学習に向かう姿勢を培う。

幼児期の自然体験活動等に基づいた「学びの芽」を大切にしながら、児童が主体的に学習するための「学習の手引き」「学習スタンダード」を作成するとともに、「自ら学ぶ」姿勢を培い、その方法を身に付けることができるようにする。

様々な場で教師が協働する学校を進めるとともに、校内研究やOJTを通して学習指導・学校経営に関するファシリテーターとしての技能を高めていく。複合的な力を付けていくことで「教師力」の向上を目指す。新学習指導要領を適切に理解し、新しい教育観に沿った教育活動を展開していく。

各教科の指導の重点

国語科

2020年度までの校内研究の流れを受け、各単元において必要感のある言語活動を設定し、それに向かって学習を展開できるように、指導計画を充実させる。日常において話型を使ったり、児童同士が関わり合いながら問題解決したりする授業展開を行う。読書活動や辞書の活用を通して語彙を増やし、言語感覚を高めるようにする。

音楽科

個に応じた指導を大切にしながら、主体的な学びにつながるよう、見通しをもたせた手立てを考え、学習を進める。課題を見つけ、何度も試行錯誤して、友達とその音楽表現を伝え合い交流する場を設定できるようにしていく。音楽のよさや楽しさを聴き、言葉などで表現できたり、音楽の特徴や曲想を生かした演奏に結び付けたりして、自分の思いや意図に近づく表現活動をしていく。

社会科

資料に書かれている語句等を理解するため辞書などを活用させることで基本的な資料の読み取り方を指導する。読み取った事実をもとにそれが表す社会的事象を理解させる。様々な事象を比較検討したり関連付けたりできるようにする。特に、実生活に結び付けてながら資料が活用できるよう必要な知識を身に付けさせる。

図工科

ねらいを明確にし、各自が活動への思いをもって表現を工夫し、楽しく取り組めるように、教材・学習の進め方を工夫する。自分なりの発想を大切にするとともに、協同的探究学習を取り入れ発想を広げさせる。また作品を鑑賞し合い、互いの良さを認め合う機会をつくる。題材ごとに自分の活動を振り返り、次時の学習につなげられるよう、文章や絵でまとめる習慣を身に付けさせる。

算数科

算数少人数委員会で、対象の3～6年生の担任と協議・連携して、主体的で対話的な学習を取り入れた授業を行う。日々の授業の流れやノート指導を一貫して行う。東京ベーシックドリル診断テスト等の結果を分析して課題に応じた手だてを講じ、復習や補習に役立て、基礎学力の底上げを図る。さらに、D層の児童の取り出し、補習学習を通して知識・技能を習得させる。

家庭科

日常の家庭生活を楽しく、より良いものにしていけるよう関連付けて学習に取り組ませる。

基礎基本を大切にし、生活に役立て技能を身に付けさせる。

関心・意欲を継続させるため、日常生活と関連付けた授業を行う。

理科

問題－予想−実験－観察－結果－考察－結論の流れを重視した授業を展開し、必然性を伴った課題を設定し、自然の事物・現象について実感を伴いながら理解できるようにする。実社会・実生活との関連を図るとともに、習得した知識・技能を実際の自然や日常生活に当てはめて考察させることで、理科を学ぶ意義や有用性を実感させる。

体育科

教員が児童に課題を与えるのではなく、児童が自ら問題発見し、課題設定・解決できるような児童主体の授業を展開する。また、体育科で一番大切なのは、安全面である。そのため、場の工夫や用具の工夫、ゲームの簡易化等をしていく。そして、生涯を通して、運動に親しめるように、運動の特性を児童に味わわせられるようにする。

生活科

児童自らが考え行動する授業スタイルを目指す。地域の特色を生かした合科的指導計画（モデルカリキュラム）を実行する。人や地域と積極的に関わる体験を積み、総合的な学習の時間に向けて課題解決する力を培う。

外国語科（5・6年生）

外国語に慣れるため、歌やチャンツ、ゲーム、対話など、楽しみながら外国語を話す活動を多く取り入れる。一時間の中で、同じ表現を活動を変えながら繰り返し話すことにより、安心して発話できるようにする。「書く」活動を取り入れ、中学英語につながるようにしていく。

総合的な学習の時間の指導の重点

地域の特色を生かしたカリキュラムを設定し、人との関わりを大切にして進めていく。

クラス、学年、低中高縦割り集団などさまざまな集団で学習を進める。

担任、T．T、ゲストティ―チャーなど指導体制を工夫する。

特別の教科 道徳の指導の重点

自己を見つめるとともに、他者理解を深める場を設定した授業を展開する中で、思いやりの心を育むとともに、道徳的実践力を高める。

社会生活のルールを身に付け規範意識の向上を図るため、道徳授業地区公開講座等を生かし、家庭・地域と連携した指導を推進する。

特別活動の指導の重点

学級・学年集団をはじめとし、互いに尊重し合う中で、安心して自分を表現することのできる集団を育てる。

一人一人が、集団の中で存在感をもち、他と協力して互いに高めあい、楽しい学校を築こうとする自主的・自発的な態度を養う。昨年度までの校内研究における研究の成果を踏まえ、児童が自発的、自治的に話合いや実践に取り組めるように、指導の工夫を継続して行う。

外国語活動（3・4年）の指導の重点

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、音声の違い等に気付くとともに、基本的な表現に慣れ親しむようにする。身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。言語やその背景の文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

本校の授業改善に向けて

○指導内容・指導方法の工夫

校内研究の研究領域を昨年度に引き続き「算数」とし、これまでの国語科や特別活動の研究で培ってきた自分の意見をもち、伝え合う力を活用し、問題解決を図る授業改善に取り組む。分科会構成を従来の学年別から、「学習の個別化」「学習の個性化」「対話的な学び」の3つに編成し直し、今日的な教育課題に即した研究をすすめていく。

また、基礎計算力を高めるためのモジュールの指導内容について、全校で取組を統一し、継続して指導する。

更に、これまでの研究で培ってきた表現力・表出力をさらに高めることにも取り組む。委員会活動やクラブ活動、学校行事等で自分の考えを表出する場面を設定したり、日常の指導から声を出して発表する経験をさせたりして、自分の考えを自信をもって発表するできる児童の育成を目指す。

○校内における研修

「よくわかる！本町田東小」等の生活指導マニュアルの共通理解を通して、全教職員が共通の基準をもって児童の指導に当たることができるようにする。

基本的な学習習慣の定着のため「学習の手引き」を活用し、全教職員が共通した「学習スタンダード」（授業規律）の確立を図る。

OJTは、若手教員と主幹・主任教諭層でコーチャー制度を取り入れ、日々の学習指導や生活指導等について継続的に指導を行う。また、教職員全員を対象とした職員研修を設定し、ICT機器や思考ツールの活用方法等、授業を支えるためのツールについての使い方等の研修を行う。

○幼・保・小・中・高の円滑な接続の視点

小中9年間に就学前の期間も加えた期間における「生活指導」を推進していく。

幼保小及び小中の接続が円滑に行えるように、育成したい子供像を共有し、家庭や地域と連携しながら、発達段階に応じた対応ができるよう指導力を高める。地域で、安心して学べる環境づくりを目指す。